



市議会議員木戸あきらの議員報告

経歴 中央大学法学部卒業、伊藤萬(イトマン)株式会社勤務後、現在は、社会福祉法人理事長。
議員歴 高石市議会議員(3期目：平成27年4月再選)

高石市議会平成30年第1回定例会の質疑を報告します。

今回は、私のフェイスブック記載文を中心に一部修正して時系列で報告します。

会期は2月22日～3月9日、市長提案議案と報告は25件でした。

高石市議会報告

2月23日

福祉土木委員会質疑

みなさんは、介護保険料をいくら払っていらっしゃるかご存知ですか？

介護保険料は高石市が決めます。市民の皆さんの所得に応じて11段階に分けて介護保険料を設定します。その平均値から保険料基準額を出します。3月31日までの高石市の保険料基準額は月額5,917円(全国平均5,514円)で、本年4月からは6,333円になります。

所得の低い人にはこの基準額より低く、所得の高い人には高く設定されます。

議案6号は、その保険料設定11段階のうち、第1、2段階の市民の皆様からいただく保険料を条例がないまま徴収していたので、新たに条例化して平成29年4月1日に遡って適用できるようにしたいというものでした。【写真2】は、行政から議員に届けられた釈明文(抜粋)です。

高齢者の皆さんは、年金から保険料が自動的に天引きされています。保険料徴収は強制的に市民から徴収できるのです。今回の件が他の一般業務によるヒューマンエラーならば嚴重注意の処置にとどめますが、保険料徴収は市民に対して強い権限であるからこそ、管理する側に厳しくあるべきと考え反対しました。

採否は、福祉土木委員会でも、後の本会議場でも賛成多数で可決されました。

【写真1】

3.条例改正漏れの原因
条例改正の趣旨について、十分な事務引継ぎ・情報共有が行われていなかったこと。また、複数の職員によるチェック体制が十分ではなかったこと。

4.判明した経緯
平成30年度から32年度までの保険料を決定する条例改正の作業を行っている際に改正漏れが判明しました。

5.再発防止等
今後このようなことのないよう、事務引継ぎ、職員間の情報共有及び複数の職員によるチェック体制を徹底いたします。
なお、関係職員に対しては口頭嚴重注意を行いました。

【写真2】

議案7号は、各種介護事業者から新規申請、更新申請の際、各手数料を徴収するというもの。手数料は0円からスタートしたのに今や有料ですから、介護事業者の方も大変です。

しかし、この議案での問題点は、申請受付団体のホームページにこれから採決する議案内容が高石市議会で採決したかのように掲載されていたことでした。

先の議案の介護保険料の徴収の条例化を1年間放置していたことで議会に謝罪したばかりです。

高石市議会は未だインターネット中継をしていません。「委員会室にカメラを備えて欲しい。」と議員全員一致して、予算権を持つ市長に要望していましたが、財政難を理由に却下されました。

カメラシステムはリースで月額約10万円、年間120万円だということです。240億円の予算の高石市が120万円のカメラシステムを財政難だからと渋っているわけですが、市民の皆さんは、2万円もって1円を渋りはりますか？

インターネット中継を実施していない議会は、いまや府内で高石市くらいです。

以上3報告に加えて、先の議会でも公立幼稚園の保育料を条例で制定していませんでした。このところの条例や議会を軽視する姿勢には閉口します。急激な人員削減による制度疲労ですか？それとも忖度してるんですか？行政に対する信頼回復に努めていただきたい！

健康寿命は高齢者と市民の交流から！



50歳から100歳体操！



ラン伴
(認知症の方に伴走するぞ！
全国イベント)



認知症が進んでも
筆使いは負けません！

高石市は今まで“ふるさと納税”に消極的でした。

“ふるさと納税”は、納税という言葉を使いますが、実態は一般的な税金ではなく、なんらかの返礼品をもらえる自治体への寄付です。

納めた額の何パーセントかが返礼品という品物やサービスとなって返ってくるのがミソで、その返礼品の率(返礼率)が高いとお得感があるので、良い返礼品やサービスを提供する自治体には全国の皆さんから“ふるさと納税”が殺到しています。

説	明
	地域振興費 5,520
8	報償費 5,350
9	ふるさと寄附金謝礼 5,350
12	役務費 170
	ふるさと寄附金取扱手数料 170

自治体名	寄附金額(円) (千以下切捨て)	返礼割合	送料込み 返礼割合
福岡県 都城市	73億3316万	58.9%	75.3%
長野県 伊那市	72億469万	46.6%	48.3%
岡山県 焼津市	51億2128万	42.7%	48.0%
静岡県 都農町	50億869万	37.0%	42.9%
千葉県 上峰町	45億7329万	62.2%	—
兵庫県 熊本市	36億8631万	0.4%	0.5%
形県 米沢市	35億3099万	63.1%	64.1%
飯府 泉佐野市	34億8358万	38.0%	42.0%
形県 天童市	33億5754万	50.3%	57.8%
海道 根室市	33億743万	33.7%	49.7%

出所：総務省「ふるさと納税に関する現況調査(都道府県・市町村別)」

2016年度は泉佐野市が返礼率42%で寄附金額34.8億円を計上しました。この結果、財政指標のひとつである将来負担比率もワースト1からワースト2位へ、ちなみにワースト1は高石市になりました。(平成28年度)

ふるさと納税の返礼率は自治体の決定にまかされています。高石市の返礼率はようやく今議会で20パーセントから30パーセントになったばかりで寄附金額も府内最下位ラインにあります。

市長になぜ返礼率を50パーセントにしないのか?と質問しましたが、ふるさと納税の過熱ぶりを懸念されているようでした。私は、熊本地震の際、0.4パーセントと極めて低い返礼率にもかかわらず、全国から熊本に36億円もふるさと納税が集まった事実を披露し、「いざとなったら国民は返礼品目当てでなく、ふるさとを助ける精神を持っています。安心して平常時の今は返礼率を50パーセントにして財源確保に励んでください! そうしないと福祉にお金を回せないですよ!」との趣旨で市長に申し上げました。

DV対策など女性が抱える問題解決の一助として、国は婦人相談員を全国に配置しています。高石市はその相談員をおかず女性相談業務としてNPO法人に委託していますが、月に2回高石市に来ていただき、一回3人を対応してくださっています。「これで足りているのかな?」と質問しました。…DVで悩んでいる方、一人悩まず、高石市の相談員にご相談ください。

私の要望2点

1 虐待された子供たちへの支援として里親制度をもっと活用するように要請しました。虐待された子供たちの多くは児童養護施設に入りますが、馴染めずそこを退所する子がたくさんいます。親の愛情を知らない子供たちには、まず同等の愛情を知ってもらいたい、そのために養護施設とは別に里親制度があります。今般、厚労省は里親委託率を上げて対象児童の75%を救う計画を立てました。高石市には児童養護施設がありませんから里親制度を市民に広く知っていただき募集し、行き場のない高石市内の子供たちを救う体制を作って下さい!と要望しました。ちなみに高石市では現在6軒の皆様が里親になっていただいていると行政からの回答でした。感謝申し上げます。

2 去る1月31日、札幌市の共同住宅で高齢の生活困窮者の方が11人焼死されました。スプリンクラーがない古民家での悲劇でした。高齢者の入居サービスと食事サービスがあれば老人ホームと見なされます。なければ高齢者住宅となります。前者はスプリンクラーが必置ですが後者には設置義務はありません。

高石市では一人世帯、二人世帯が急増しています。孤独な高齢者の行き先の一つに共同住宅があります。高石市内で気になる住居があればこの機会にチェックしてくださいと要望しました。



困窮者支援の現場でまた悲劇

ご存知でしょうか？

民生委員制度が始まって100年を向かえました。

高石市の民生委員の皆様は92名いらっしゃいます。民生委員の皆様や小地域ネットワーク委員の皆様のおかげで独居老人のケアは充実しています。地域福祉は、これらの方々を支えて成り立っています。

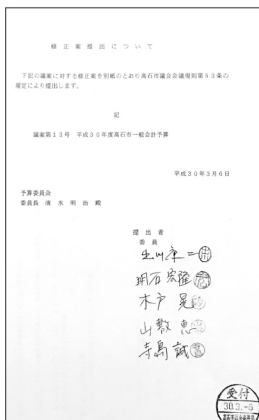
市長提出の一般会計予算案(原案)に対抗して、全員協議会室(いつも委員会を開催する部屋)にカメラを設置することを盛り込んだ修正案(提案者は私を含め5人)を提出しました。議員提出の予算修正案とは、予算の増額をしない範囲で行政に修正を迫れる議員に与えられた権利。今回は議員の研修費などの費用を削って同額カメラ設置へ組替えました。

この修正案を福祉土木委員の皆さんに採決していただく直前になって、市長は、次回の6月議会でカメラ設置費用を予算計上する!と答弁されました。

財政難を理由に市長は頑なに市民に発信するカメラ設置を拒んでいましたから、こちらの主張を受け入れたこととなります。

議会と緊張感を持って議論したい改革派首長は修正案を歓迎しますが、古いタイプの首長は嫌がります。

市長が嫌がっても議会は市長に思いを届けないといけない時がありますが、今回はその思いが届きましたので、他の会派の4人の委員と相談して修正案を取り下げました。市長提出の予算原案は賛成多数で可決されました。



原			[単位:千円]	
一般財源	区分	金額	原	明
257,084		1,914	64,964	
1000-000	9 旅費	2-000	24-000	A
			657	△11.9
	14 使用料及び賃借料	2,642	1-000	
			652	
			2,642	
			14 使用料及び賃借料	0-100
			編集等送致設備賃借料	2,550
			編集等送致設備賃借料	0-064
			192,248	500 10x500
			議会議費	192-248
			1,482	B
	9 旅費	2-000	1,482	554
			費用控除	0-000
257,084				
1000-000				

A+B=673千円
差額は173千円
採入 減出 削

全ての議案の質疑が終わって本会議場で採決。私は近年一般会計予算に賛成してきましたが、本年度予算には反対しました。

近年、高石市は赤字予算を組んでいます。一年後の決算時には黒字になっています。平成30年予算も4億7,000万円の赤字予算を計上していますが、決算ではどうなるのか？決算で黒字化する状況を財政難といえるのか？を財務担当者に聞きましたが、「財政は厳しいです」と微妙な表現。確かに、担当者が言うとおり財政が厳しいから、高石市は子ども医療費助成などにお金をかけないでいました（今予算でようやく他市並みの中学卒業までに拡大）。しかし、市長が進めるスマートウェルネス事業（健康寿命を延ばす事業）には、今年度も1億2,000万円ほどの資金が投じられて、前年と比較しても増加しています。

スマートウェルネス事業は、高石市長が発起人の1人になり内閣府と連動し、都市連盟を作って“健幸都市”構想を展開しています。その構想の下、高石市は、ウォーキングロード、道路脇の人口せせらぎ、などハードを整備し、ソフト面では健康クラウドと称してコンサルタントにデータ分析を依頼しています。また、管理料を支払って指定管理者に健康教室を開かせる、市民が会員になって歩いたら歩数計を買ってあげたりしています。

健康寿命を延ばすことに反対する市民はおそらくいらっしゃらないでしょう。でも1億2,000万円もお金がかかるとなったら、その使い方をチェックすることは必要です。

昨年の10月、行政は、歩けば歩数計がもらえる会員の枠を20歳まで広げました。自助努力で健康維持ができる20歳の方に歩数計を配る必要があるのか？むしろ、在宅あるいは施設で健康回復のために日夜頑張っている高齢者にこそ健康寿命を延ばすように支援すべきです。歩数計をやるお金で写真のような足漕ぎ運動器が買えるのです。



財政当局が「財政が厳しい」と答弁しているのに、「健幸」事業には昨年より多額の資金を使う。議会が要求した市民のためのインターネット中継力カメラ設置料年間120万円には財政難だからと予算化しない。累積赤字7億円にもなる高石市立診療センターを今年も放置し、さらなる歳出増大はわかっていたはずなのに「ふるさと納税」制度に真剣に取り組まない…。

この予算には、「財政が厳しい」という割に危機感がなく、また一貫性がない。私はもう一度予算を練り直すべきだと思いましたがで反対しました。反対は私他3名でした。

診療センターの赤字放置の問題

高石市立診療センターは、平成28年度決算で累積赤字7億4,196万円を計上しています。それを何年も同じ敷地内にある老健施設「きやらの郷」の蓄積で補ってしてきました。この二つの施設の事業母体は高石市保健医療センターです。平成30年度予算では、老健施設事業部門は写真のように6億8,295万円の次期繰越収益を計上していますが、連結して相殺されています。また、診療センター部門の単年度予算も老健施設の予想収益で補って予算化しています。

病院から家への橋渡しになる老健施設「きやらの郷」は高石市にとって大切な施設です。これ以上診療センター事業部門の赤字補てんに使うべきではありません。休日診療など市民サービスでどうしても必要な施策があるなら、それを分けてください。これ以上の先延ばしには反対です。

診療センター事業部門
平成28年度 決算

科 目	予算額	前年度予算額
前期繰越収支差額	△ 741,996,728	△ 741,996,728
次期繰越収支差額	△ 741,996,728	△ 741,996,728

老健施設事業部門
平成30年度 予算

前期繰越収支差額	669,893,604	664,664,604
次期繰越収支差額	682,951,604	669,893,604

最終日の9日は、「一般質問」を行いました。私はまず「津波火災」を確認しました。

「高石市地域防災計画」が更新されましたが、「津波」、「地震」についての項目はありますが、私が懸念している「津波火災」については項目も論述もありません。東日本大震災の際には私は三陸沖の都市を巡りましたが、写真の気仙沼市は石油タンクが流出して破損し、がれきに引火したことから市の大半が焼失しました。



石油を飲んで死線をさまよった石巻市のSさん

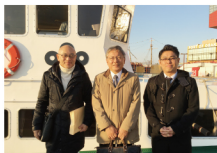


日和山から石巻市をうつす



当時の宮城県気仙沼市

大阪湾に面している都市の中でも、高石市は石油コンビナートの東側に隣接する特異な都市です。あれから7年、気仙沼市の経験が検証されているのなら、なぜ高石市地域防災計画に「津波火災」が言及されていないのか？石油コンビナート防災を大阪府に任せきりですが、高石市独自の津波火災対策を高石市が作るように切望しました。



青木大阪大学教授、畑中市会議員らと



船上から石油コンビナート護岸を確認



また、高石市の指定避難ビルは津波対応であるが、津波火災を念頭に置いて指定されていません。要支援、要介護、要配慮の皆様を受け入れる避難ビルとしては不完全です。防災計画の更なる改善のため高石市危機管理担当職員の奮起を期待すると要望しました。

3/11 2:46 黙祷しました



写真は仲間とともに
寄贈したコンテナハウス。現在、
大船渡市のコミュニティカフェ
として活躍しています。

（最後に）

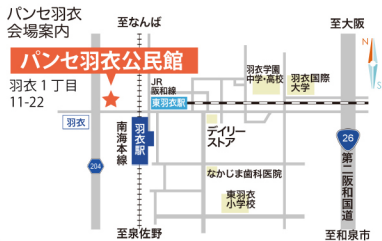
手話言語条例制定を市長が議会に議案提案されるように要請しました。高石市には手話は言語であるという条例がありません。条例があれば、少なくとも行政機関において、ろうあの方々への対応が整備されます。また、手話通訳士の常勤化も検討してもらえます。すでに堺市をはじめ大阪府内市町村で条例化が進んでいます。高石市も負けずに様々な福祉制度の整備を進めてほしいと願っています。

木戸あきら市政報告会

平成30年4月28日

13:00～15:00

会場：パンセ羽衣3階 会議室
(羽衣1丁目11-22)



市民講座① 「津波火災と高石市」講座

会場：パンセ羽衣3階大会議室(羽衣1丁目11-22)

平成30年5月27日 15:30～17:30



大阪大学 大学院 教授 青木 伸一

高石市東羽衣在住。
大阪大学大学院工学研究科卒
豊橋技術科学大学教授を経て現職
専攻は、海岸工学、沿岸防災、沿岸環境

国土交通省海岸委員会委員
土木学会海岸工学委員長
豊橋技術科学大学名誉教授を兼職



市民講座② 高石市フューチャーデザイン

平成30年6月23日 15:30～17:30

会場：パンセ羽衣3階大会議室(羽衣1丁目11-22)

大阪大学 大学院 教授 倉敷 哲生

大阪大学大学院工学研究科卒
大阪大学工学部生産加工工学科 助手
ベルギーカトリックルーベン大学 Visiting Professor

経済産業省 製造産業局 戦略調査官を経て現職
(大阪大学大学院工学研究科ビジネスエンジニアリング専攻)



参加された皆さんと
ワークショップします

市民講座③ 【予定】平成30年7月21日

「介護なんでもお話し会」を、木戸あきらが

“介護福祉施設どう?”の仲間と講演します。介護のこと何でも質問してください。



上記の要領で行います。ご来場お待ちしております。



高石市議会議員

木戸あきら

最後まで、お読みいただきありがとうございます。改めて私の公約を掲載致します。

高石市の社会福祉の拡充を目指す

- 1.子育て支援、介護支援を充実させ、働く世代の負担を軽減する。
- 2.老人介護施設を増設し、地域交流(介護予防)拠点とする。
- 3.認知症対策として認知症サポーター制度の普及率10%を目指す。

連絡先 〒592-0003 高石市東羽衣1-5-25 木戸あきら事務所 072-261-7801(TEL/FAX)

公式ホームページ <http://kidoakira.com/>

木戸あきら